

RoboCup

JAPAN OPEN 2014

ロボカップ ジャパンオープン 2014

2014年5月4日(日) 5日(月) 6日(火)

10:00~18:00(最終日は16:30まで)

(会場)

九州工業大学情報工学部

(福岡県飯塚市) @ホーム、小型、SPL、ヒューマノイド、
シミュレーション(サッカー、レスキュー、VR)
www.iizuka.kyutech.ac.jp

入場無料

JR新飯塚駅よりスクールバス運行 無料
キャンパス内無料駐車場有り

主催：ロボカップジャパンオープン2014開催委員会
(特定非営利活動法人ロボカップ日本委員会と新潟工科大学と九州工業大学から構成)

共催：(社)計測自動制御学会システムインテグレーション部門
(社)人工知能学会 (社)日本ロボット学会

後援：文部科学省、経済産業省、北九州市、柏崎市、飯塚市

www.robocup-japanopen.org

スクールバス
運行
無料



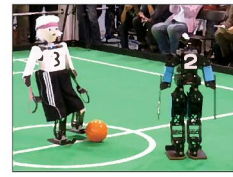
競技種目

ロボカップサッカー

自分で考えて動く自律移動型ロボットを使った競技会形式で行われます。サッカーは誰でも知っているスポーツなので、最新の科学技術を、楽しみながら見ていただくことができます。ロボット実機とシミュレーションをあわせて、5つのリーグ競技を行います。

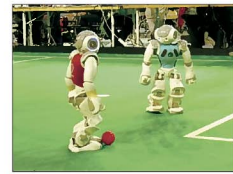
ヒューマノイドリーグ

1チーム3台ずつのロボットで競技するようになり、人間のサッカー競技に近づいてきました。ロボットの大きさの違うキッドサイズ、ティーンサイズ、アダルトサイズの3リーグがあります。



標準プラットフォームリーグ

各チームが同じプラットフォーム(ロボット)を使います。ロボットの性能は同じなので、プログラミングの工夫がポイントです。フランス製ヒューマノイド型ロボット(NAO)が、会場を盛り上げます。



中型ロボットリーグ 北九州会場のみ

縦横50cm未満のロボット5台でチームを構成して、18×12mの大きいフィールドを縦横無尽に駆け回る、迫力満点のリーグです。ほとんどのチームが、全方向を見渡せるカメラを搭載しており、自分とボールの位置をすばやく判断して動きます。人間のサッカーと同じボールを使用しています。



小型ロボットリーグ

直径18cm、高さ15cmの小さいロボット5台で1チームです。フィールド全体を見渡すカメラと、ロボットに載せたカメラを使って、人間のサッカーを凌ぐ俊敏な動きをします。また、ロボットの状況判断力も、ずば抜けています。車輪型のロボット(SSL)だけでなく、ヒト型ロボット(SSL-Humanoid)による競技もあります。



シミュレーションリーグ

コンピューター上のスクリーンフィールドで、人工知能プログラミングされた11対11のプレイヤーがサッカーをするリーグです。高さの無い2次元フィールド(2D)と、ヒト型ロボットが技を競う3次元フィールド(3D)のリーグに分かれています。



ロボカップレスキュー

地震や大きな災害をイメージしたフィールドで、人命救助に生かしていこうとするプロジェクトです。実際の現場で救助に役立つロボットを開発する実機リーグと、救助戦略を考えるシミュレーション、2つのリーグがあります。

レスキュー実機リーグ 新潟工科大のみ

被災現場をモデルとしたフィールド内にある被災者の情報(状態・場所など)を、遠隔操作または完全自律型のロボットを使用して調査し、その精度を競う競技です。ロボットが、人ですら歩くことが困難なフィールドで見せるダイナミックな動きと、情報調査時に見せる繊細な動きが見所です。



レスキューシミュレーションリーグ

都市直下型地震のおきた都市をシミュレーションします。その被災都市上で活躍する3種類のロボット(消防/救急/土木)が協力して、どれだけ被害を食い止められるかを競います。様々な都市・被災状況で活躍できるバーチャルレスキューロボットが災害救助を行う競技です。



ロボカップ@ホーム

キッチンや、リビングルームといった日常生活の場所で、ロボットがいかに役に立ち、人間と共に暮らしていけるのか?という可能性を探る競技です。キッチンやリビングルームでの利用を想定して、ロボットがいかに人間と共に作業を遂行できるか、その技術を競技形式で評価します。

